

日経BP社と清華大学は、2004年4月15日～16日に清華大学(写真1)において「ナノテク・フォーラム」を開催することで合意した。フォーラムのサブタイトルは「ナノテク政策とナノ材料の設計・応用」。2日間にわたり5セッションを設け、1セッションごとに日中双方の講師がテーマに沿った講演をしていく予定。

共同フォーラムは、まず、清華大学 学長 顧 秉林氏(写真2)および日経BP社長 河村 有弘の挨拶から始まる。日本側講師として、2000年ノーベル化学賞受賞者で総合科学技術会議 前議員の白川 英樹氏が日本のナノテク政策を論じる。そのほか、東北大学 金属材料研究所 教授 川添 良幸氏、名古屋大学 大学院理学研究科 物質理学専攻 教授 篠原 久典氏、ノリタケカンパニーリミテド 戦略開発センター SDP5部長 上村 佐四郎氏ら(写真3)が講師として登壇する。

川添氏は、コンピュータシミュレーションを使って新しいナノ材料を設計していく手法とその実例を紹介する。篠原氏は、ピーポット(フラーレン内包カーボンナノチューブ)などナノカーボンの製法などについての最新研究動向を発表する。上村氏は、カーボンナノチューブの応用例として、FED(電界放出ディスプレイ)の開発状況を開発中の試作機を持ち込んで説明する。

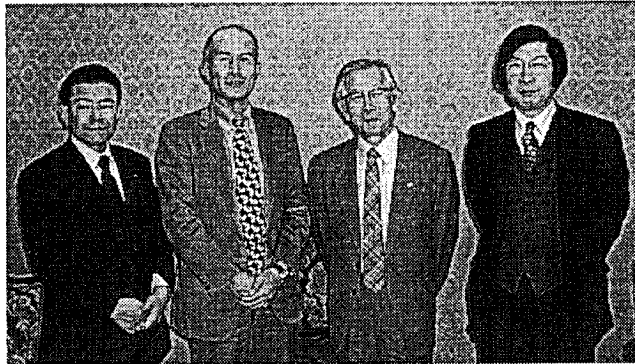
一方、中国側からは、中国科学院 院士 中国科学院ナノ科学技術センター長 兼 物理研究所 研究員の解 思深氏が中国中央政府の最新ナノテク政策を詳細に述べる。そのほか、北京大学 物理学部 教授 朱 星氏、清華大学 化学工学系 教授 魏 飛氏らが中国におけるナノテク研究開発の最新状況を報告する。



【写真1】清華大学東門から、共同フォーラム会場の清華大学主講義棟を望む



【写真2】清華大学 学長 顧 秉林氏



【写真3】日本側講師陣。左から、上村氏、篠原氏、白川氏、川添氏